

学校支援の取組事例

江戸川区「江戸川区立平井第二小学校」の学校支援の取組について

【取組の特徴】

「江戸川区学校応援団」は「子どもたちのために役立ちたい」という思いをもっている保護者や地域の方々が、学校の希望することを応援する仕組みです。

地域・保護者・家庭が連携し、学校を取り囲む地域全体で子供を見守り、育てていこうとする活動が「学校応援団」です。

■ 主な活動内容

平井第二小学校の学校応援団は、校章の『わかばと』にちなんで、『わかばと学校応援団』と銘打って、平成21年度より本格的な活動を開始し



わかばとグリーンキーパーズの活動

ました。これまで本校の教育活動を支えてくださっている活動グループ「読み聞かせボランティア」「学校図書館整備ボランティア」「すくすくスクールサポートセンター」「おやばとの会」「土曜サポーター」校庭芝生の維持管理組織「わかばとグリーンキーパーズ」の6つで構成しています。応援団長は第七代PTA会長の鶴巢寿明さんです。毎年1回、「学校応援団総会」を開催します。

■ 地域の機関・団体との連携・協力

本校は児童数85名、教職員数21名の小さな学校です。この恵まれた環境を更に生かすために地域・保護者の方の協力は欠かせません。今年も各グループのリーダーが中心となってそれぞれの役割を積極的に担っていただいています。その献身的な協力体制にはただただ感謝です。今年もわかばと学校応援団のユニフォームの緑ベストが大活躍をしています。子供たちからもこのベストを見ると「こんにちは。」「ありがとうございます。」の声が寄せられています。



■ 地域ボランティアやコーディネーターの活動状況

わかばとグリーンキーパーズの活動には、地域のみなさん、保護者のみなさん、教職員そして、児童、合わせて40名近くが参加しています。

読書活動の充実に向け、これまで以上に読み聞かせボランティアの方のお力をお借りしています。4月23日の読書の日の集会では、シリーズ『あらしのよるに』から最終版(まんげつによる)の役割読みをしていただきました。



読書の日の集会

■ 組織・運営について

年1回、学校応援団6団体が集まり、総会を開催します。各団体の代表から活動報告を行い、成果と課題を発表します。また、学校からの要望、学校への要望などもこの時討議されます。その後、毎年度講師を招き、講演を行っています。昨年度は台東区教育委員の前田烈先生をお招きして、「心ゆたかな子供を育てる」の講演をいただきました。

■ 取組の効果と今後の展望について

本校を支えてくださる頼もしい応援団、それは「わかばと学校応援団」の皆さんです。おかげ様で「小さな学校の大きな教育力」を最大限に発揮し、明るく元気な子供達を育てています。今年度は「心の旅をしよう～本の扉を開いて～」をテーマに応援団の方の力をお借りして読書科に力を入れています。

地域の皆様に愛され、大切にされる学校づくりを今後も推進して参ります。

学校支援の取組事例

福生市「福生市立福生第二小学校」の学校支援の取組について

【取組の特徴】

平成23年4月から学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで子供を育てる体制を整えることを大きな目的として「学校支援地域組織事業」を開始しました。福生市立福生第二小学校では、平成23年10月に学校支援コーディネーターが着任し活動を行っています。学校支援コーディネーターは週3回学校を定期訪問し、校長・副校長から求められている支援内容等について聞き取りし、体験学習の受入施設や学習支援ボランティアの紹介等のコーディネートに取り組んでいます。

■ 主な活動内容

- ①講演会の講師紹介
- ②学習支援ボランティアの紹介
- ③体験学習受け入れ施設の紹介
- ④地元消防団の紹介
- ⑤芝刈り・芝生の雑草取り
- ⑥日本語教室児童の送迎



消防団の話

■ 地域の機関・団体との連携・協力

◆白梅会館利用者交流会

隣接する白梅会館(公民館・地域会館)で行われる利用者交流会に、学校支援コーディネーターも参加し学校の状況・要望を伝え、協力を求めています。

◆ふっさボランティア市民活動センター(FVAC)の活用

ボランティア・市民活動・NPOに関する情報収集と紹介をしてもらいます。

◆主任児童委員・児童委員他

主任児童委員・児童委員(元職も含む)のネットワークを活用した情報提供や、ふっさっ子の広場(放課後子供教室)との連携を行っています。

■ 地域ボランティアやコーディネーターの活動状況

◆地域ボランティア

学習支援ボランティア
6名のボランティアが活動中
図書ボランティア
約10名の保護者・保護者OGが活動中

◆学校支援コーディネーター

週3回の学校訪問、地域の機関・団体との連携・協力、他校コーディネーターとの情報交換等、様々な情報収集に努めています。

■ 取組の効果と今後の展望について

頼んで良かった・頼まれて良かったという関係が、学校とボランティアの間にできあがってきていると思います。その関係を維持・発展するために、学校支援コーディネーターが調整役を務めることが必要と感じています。今後は学校の多様なニーズに応えるため、ボランティア(サポーター)登録の推進や保護者や地域住民、学校等のあらゆる立場の人が参画して情報交換等を深め、より安定的な運用ができる環境を作ることを目指していきます。



福祉体験